

## アラウンド・ザ・ワールド 2

Around the World

第100回

## 「年金の時限爆弾」を解除する

アラウンド・ザ・ワールドPart2の100回目は、年金のリスク移転を考察する。海外市場で確定拠出年金へのシフトとともに起る変化とは？

(RGA再保険会社提供)

アクチュアリーは、人口の高齢化が進むと老後資金へのプレッシャーが高まる、いわゆる「年金の時限爆弾」問題を長年予測してきた。世界の規模な公的年金制度や民間のプログラムが一部崩壊し、時限爆弾が爆発する時期の加速が見込まれる。

## 道を切り開く

米国および英国では、年金リスク移転のソリューションを背景に、企業は確定給付企業年金のため終身年金を急速に購入してきた。生命保険商品で終身保障の年金を提供し、退職者集団のために企業が購入する。このような退職者向けビジネス市場からは、年金リスク移転を通じた終身年金の促進にあたっての重要な教訓を得ることができ

る。退職者は自分自身の貯蓄や資産運用に頼るしか術がなく、高齢になるにつれ十分な生活資金を備えていないと感じるだろう。理論上、保険会社は既にその解決策を提供している。終身年金保険だ。資産を年金に変換し、退職者は予想より長生きするリスクを保険会社へ移転できる。しかし、個人年金市場は長年にわたる低金利環境の影響

## 法規制の重要性

退職年金の積立期間および引出期間全体に対して首尾一貫した法規制上の枠組みは基本的要件だが、充足していないこともあり、政策当局が注目すべき点だ。企業による確定拠出年金のアカウン

## 年金リスク移転から得られた教訓

トと、退職後に利用可能な保険や資産形成の商品に連続性がないため、個人で貯蓄しようとする

と、退職時に二者択一を迫られる。退職金を一時金で受け取るか、終身年金を購入するか、いずれかだ。任意の判断をしな

ければならない時、人は初期設定を変えない傾向がある。そのため、多くの退職者は、退職金を一時金で現金で受け取っている。

この非連続性に対応す

るため、雇用主は、終身年金を確定拠出年金に組み入れることができる。仕組みを適切に変更することで、確定拠出年金の加入者は、退職に向けた積立期間中に、または退職時に、確定拠出年金を通して終身年金を購入できる。そのためには、確定拠出年金を監督する法規制と保険商品やその販売方法を監督する法規制

## インセンティブの重要性

間違いなく、確定給付年金の廃止により、極端な状態から、その対極にある極端な状態へとシフトが起きた。つまり、雇用主が退職者の終身年金を保障するリスクをすべ

なった。首尾一貫した法規制に基づき、税制や企業へのインセンティブも働き、雇用主は、確定拠出年金の一部として終身年金の導入を考慮するようになった。

## 顧客のバイアスの重要性

退職年金市場の多様な関係者（政府、雇用主、保険会社等）が終身年金保険を購入しない退職者の志向にどのように対抗するかを考えることが、おそらく最も困難な課題だろう。確定給付年金では、退職年金の積立義務を保障業界に移転する価値が十分認識され、広ま

っていた。各個人の態度を変えるための解決策はシンプルで、退職者個人に選択肢はなく、確定給付年金基金が代表して保障を購入する方法だ。

退職後の資金に対する政府や雇用主の役割が不可逆的に徐々に低下する中、退職までに、そして退職時点で適切な財務的選択をする義務は各個人にあるが、平均的な退職者が直面する経済的リスクに対する備えはあまりにも少ない。老後の資金におけるギャップは大きく、現在の傾向が続く限り拡大し続けるため、大半の先進国において、ギ

将来を先取りした洞察をご提供できるよう努めてまいりました。今後も保険毎日新聞社のご協力による寄稿を通して、お客さまの課題解決、トップラインのさらなる飛躍、商品開発の取り組みに資する

◇

## 行動を起こす

【リボヴィクス氏のプロフィール】グローバルな年金リスク移転ビジネスで10年を超える豊かな経験を有する。RGAの欧州地域担当のビジネス開発の責務では、英国の保険会社や年金基金を支援する長寿リスク対応再保険や資産リスク管理において大規模な再保険取引を成功させた。2020年からは米国をベースに、年金リスク移転や長寿リスク管理のビジネスを管轄する。各国業界団体にも厚く貢献し、日本アクチュアリー会例会で7月に講演予定。

執筆者

デイビッド・リボヴィクス

日本語訳

山本あゆみ

日本語監修

新野豊太郎

共同監修

澤田 和子



リボヴィクス氏



澤田氏

連載第100回を迎えて

RGAリインシュアランスカンパニー日本支店

澤田和子

アラウンド・ザ・ワールドPart2の連載第100回を迎え、RGAリインシュアランスカンパニー日本支

店を代表して、読者の皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。最新のトレンドや革

ご質問等ございましたら担当者までお問い合わせください。